



2026 年 8 月 25 日

約 35 年前のグラフィックカー第 1 号が、ラッピング車両で復刻！
8 月 30 日（日）から
「ほほえみ号」ラッピングトレインの運転を開始
2027 年国際園芸博覧会に向けて、「花」で彩る車両が相鉄線沿線に

相模鉄道株式会社

相鉄グループの相模鉄道(株)（本社・横浜市西区、社長・平野 雅之）は、2026 年 8 月 30 日（日）から、グラフィックカー※第 1 号を復刻した「ほほえみ号」ラッピングトレイン（以下、同車両）の運転を開始します。

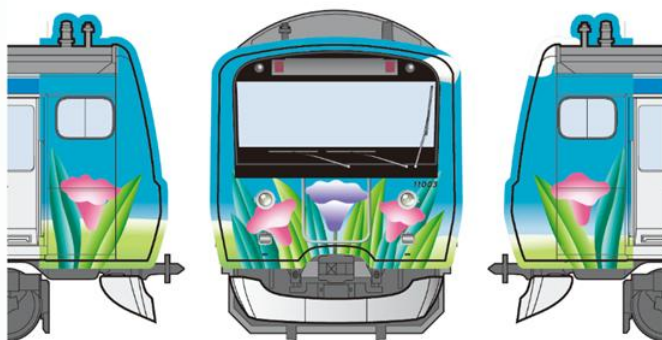
相鉄本線の二俣川駅～厚木駅間（1926 年 5 月 12 日開業）および上星川駅～二俣川駅間（1926 年 12 月 1 日開業）が、今年で運行開始 100 年という節目を迎えます。これを記念し、日頃から相鉄線をご利用いただくお客さまに感謝の気持ちをお伝えするとともに、2027 年 3 月から相鉄本線 瀬谷駅・三ツ境駅付近で開催される「2027 年国際園芸博覧会（GREEN×EXPO 2027）」に向けて、「花」のデザインをあしらった同車両を運行することで、沿線にお住まいの皆さまとともに機運を高めていくことを目的に実施するものです。

「ほほえみ号」（1983 年～1991 年運行）は、アニメーション作家・画家の久里 洋二（くり ようじ）氏がデザインを手がけた相模鉄道のグラフィックカー第 1 号です。1970 年に登場した新 6000 系（8 両編成）の車両全体に、花畑や自然をモチーフにした鮮やかなデザインが直接車体にペイントされ、思わず笑みがこぼれてしまうような明るい雰囲気から「ほほえみ号」と名付けられました。

同車両には、11000 系の車両前面と乗務員室の側面の一部に、当時のデザインを再現したラッピングを施します。スカイブルーの色彩に、ピンクや紫の色鮮やかな花々をあしらった同車両が沿線を駆け抜けることで、皆さまに「ほほえみ」がこぼれるような、「朗らか」で「色鮮やか」なひとときをお届けします。

概要は別紙のとおりです。

※ 電車の車体全体に、塗装でデザインを施した車両で、相鉄線では 1980 年代から 3 種類のグラフィックカーを運行。



前面・側面ラッピング（イメージ）
※側面は、乗務員室扉の前までラッピング



ほほえみ号（新 6000 系）

「ほほえみ号」ラッピングトレインの概要

1. 運転期間

2026年8月30日(日)～2027年7月下旬ごろ(予定)

2. 対象車両

11000系(11003×10)1編成

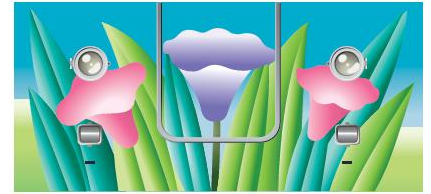
3. 運転区間

相鉄本線(横浜駅～海老名駅)・相鉄いずみ野線(二俣川駅～湘南台駅)

※相鉄新横浜線(西谷駅～羽沢横浜国大駅～新横浜駅)の他、JR線・東急線などの直通運転区間では、運転の予定はありません。

4. 内容

車両の前面(横浜方面と海老名方面の先頭車両)と車両の側面(乗務員室の扉の前まで)にラッピングを施します。



「ほほえみ号」ラッピングトレイン
前面下の部分(イメージ)

「ほほえみ号」(1983年～1991年)の概要

1. 車両名称

「ほほえみ号」

2. 運転期間

1983年～1991年

3. 塗装した車両

新6000系(8両編成)

4. 内容

○相鉄線の横浜駅乗り入れ50周年を記念し、電車を明るい色にしようと企画。

○デザイン担当のアニメーション作家・画家の久里 洋二(くり ようじ)氏によると、明るい花畑で笑いやうれしさがこぼれる様子をイメージしてその制作にあたったといいます。

○1983年12月10日に横浜駅で出発式が行われ、久里氏が1日駅長を務めました。

○「ほほえみ号」の車内をギャラリーにして、相鉄線沿線の小学生の絵を展示する児童画展や写真展なども開催。当初2年ほどで運行を終了する予定でしたが、多くの皆さまにご好評をいただいたことから1991年9月まで運行が延長され、昭和・平成時代の相鉄線沿線を駆け抜けました。



ほほえみ号(新6000系・左)
1日駅長を務める久里 洋二氏(中央・右)

相鉄グループの GREEN×EXPO 2027 Village 出展について

相鉄グループは、2027年3月19日(金)から開催される「2027年国際園芸博覧会(GREEN×EXPO 2027)」の Kids Village (キッズビレッジ) にて、「SOTETSU PARK (そうてつぱーく)」を出展します。

SOTETSU PARK のコンセプトは「ともだちとすみか」。「ともだち」は、ひとをはじめ身近に暮らす生きもの、「すみか」は、生きものそれぞれに適した住処を指し、生物と自然が影響を及ぼし合いながらも調和して暮らすフィールドを表します。子どもたちが「ともだち」に出会い、「すみか」で遊びながら触れていくことで、身近な生きものや自然を知り、守るアクションにつなげていくことを目指します。



©Expo 2027